

お茶うけ 第82話

「そろばん」の使い方を英語で説明する

昨年春、知人のアメリカ人の一家が来日することになったので、私は、その10歳になる男の子(Nくん)に日本らしい土産として、そろばんを贈ることにしました。

そろばん本体は、文房具売り場の片隅で見つかりましたが、「そろばんの使い方を書いた本」が見当たりません。大きな本屋の店先にも、英語で書いた「そろばんの本」どころか、日本語の「そろばんの本」さえ無いのです。店員に尋ねると、「『そろばんの本』は店頭には置かず、カタログで注文を受けてから取り寄せます」ということでした。つい最近まで、日本の家庭で最も身近な道具であったそろばんが、こんなに遠い存在になっていたことに驚きました。

Nくんに会う日が迫っていたので、私は図書館で「そろばんの本」を借りて、最も基礎的な「足し算」と「引き算」の仕方を英文に翻訳しようと思いました。

ところが、日本の小学生向けの「しゅざんの本」は、珠を指で動かす動作の説明から始まっており、しかも動作を次のようないろいろな言い回しで表現しています。

「そろばんに、はじめて かずを あらわすことを、『おく』と いいます。

おいてある かずを けすことを、『はらう』と いいます。

そろばんでは、かずを たすことを、『入れる』とも いいます。

そろばんでは、かずを ひくことを、『とる』とも いいます。」

そもそも計算に使う一珠や五珠がどの状態になれば値を持つかという基本的な事柄の明確な説明がありません。そろばんを知っている親や祖父母がいれば、誰かに教わることができますが、独学でそろばんを学ぶ外国人には、まず基本的なことの説明が必要です。この表現を英語に直訳しても、Nくんはそろばんの使い方を理解できないなと思いました。

窮余の策として、「そろばん」塾を電話帳で探し出し、塾のオーナーに事情を話したところ、親切にも『SOROBAN : USEFULL ARITHMETIC TOOL』という本を譲り受けることができました。この本は日本のそろばん教育連盟が作ったもので、英文で「そろばんの使い方の初歩」が分かりやすく説明されていました。

その中の、「How to Display Numberes (数を表現する方法)」の項では、「珠に値を持たせる」ことを次のように説明しています。

「The values of counting beads are determined by their positions.

They obtain values when they are pushed toward the center bar and lose values when pushed away from the bar.」

意識すると、「そろばんの珠(bead)は、1の珠も、5の珠も、その置かれた場所で値(value)が有るか無いかが決まる。珠は「はり(英語で center bar)」に向かって動かされると値を持ち、「はり」から離れるように動かされると値を失う」です。

言い換えると「珠が値を持つか持たないかは、珠が「はり」に接触しているか、離れているかで決まる」こととなります。ただし、1の珠では繋がった複数の珠の上端の珠が「はり」に触っていると値を持つこととなります。

来日したNくんは、そろばんとこの『SOROBAN : USEFULL ARITHMETIC TOOL』の本を渡したら、早速そろばんを手にして、パチパチと指で珠をはじいて喜んでいました。

大きな本屋にも「そろばんの本」が常備されていないのに衝撃を受けて、私は小学校のそろばんの授業時間数を市役所に聞いてみました。すると今の小学生は、3年生か4年生のとき、年間で3時間だけ、そろばんの授業を受けるという返事でした。しかも、授業時間数が少ないので、その内容はそろばんを紹介するに止まり、せいぜい足し算をして見せる程度ではないかと言うことです。

今やそろばんよりも便利な電卓やパソコンが普及し、さらにITの時代がくると喧伝されていますが、どんなに便利な機械やシステムも、それを使う人が「数と数字と計算」の基礎をしっかりと身につけていなければ、誤ったデータの入力によって混乱を起こしかねません。私の少ない経験からも、そろばんは「計算」の基本の理解に役立つ最適の道具と思えるのに、こんなに授業時間が減っていることは、実に嘆かわしいことです。

なお、英文のそろばんの本としては、『The JAPANESE ABACUS Its Use and Theory』 by TAKASHI KOJIMA が 図書館にありました。

以上

参考文献:

『しょうがくしゅざん』 竹内乙彦 他著 暁出版(株) 1982. 2.25刊

『SOROBAN : USEFULL ARITHMETIC TOOL』

THE LEAGUE FOR SOROBAN EDUCATION OF JAPAN INC.刊 First Edition, June 1981